

# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月15日～

先週は米国のFOMCで予想通り0.25%の利下げが決定されました。

また、短期米国債の購入開始を決めました。QE(量的緩和)再開かという声もあり、ドル安要因になっていくかどうか今後の動きを見ていきたいです。

そして、今週金曜には日銀金融政策決定会合があります。

日本の0.25%の利上げはほぼ織り込み済みとなっています。

日本はインフレがおさまっていないので、中立金利(景気を刺激も冷やしもしない中立的な金利水準)を引き上げるかどうかにも注目が集まっています。

もし、中立金利を引き上げれば今後も継続して利上げが行なわれる可能性が出てくるため円高要因になります。

実質金利の算出方法をCPI(消費者物価指数)に置き換えるという話も出てきており、来年以降も日本の金利はじわじわと上がっていく可能性があります。

植田・日銀総裁定例会見の内容にも注目が集まっています。

また、日銀の動きと高市政権の動きがバラバラなため予想が難しくなっています。

サナエノミクスは、インフレを加速させる政策であり、実際に来年以降もインフレが進めば日銀はさらなる利上げに動くことになります。

政策金利の上げ下げだけでなく、米国のQE(量的緩和)の行方や日本の中立金利がどの程度になってくるかというニュースも気をつけて見ていきたいです。

この短期米国債の購入は、準備預金残高が十分な水準まで減少してきたため準備金を必要な水準に維持するために行なわれるということです。

短期資金の流動性が低下すると金融危機のようなパニックが発生するリスクがあるため先手を打ったということでしょうか。

さらに、欧州では利下げを終了させ、次は利上げのサイクルに入ってくるとの見方が強まればユーロ高がさらに進む可能性があります。

今週は英国でも政策金利が発表されますが予想は0.25%の利下げとなっています。

そして、コモディティや貴金属が上昇していることから資源国通貨や南アフリカランドには追い風が吹いています。

今週は重要指標の発表が多く、16日には11月の雇用統計の発表もあります。

相場が動くとしたら今週動く可能性が高く、来意集以降はクリスマス休暇に入ってくるため取引量が減っていきます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

# 今週の相場はどうなる？

## <ドル／円>

先週は157円近くまで上昇した後は、勢いがなくなり、155円あたりまで下落しました。下値は155円を割り込むと12月初めの安値154.3円あたりがメドとなります。ここも割り込むと円高リスクが高まり、150円あたりまで下げる可能性もありそうです。上値は157円を超えると11月高値の157.9円あたりがターゲットになります。日銀の利上げがほぼ確実視されていることから円高に振れやすいため、安値更新の動きに注意しながら取引していきたいです。まずは、154-157円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

## <気になるクロス円>

クロス円は週足で見ても上昇しているペアが多く、今週もこの流れが継続するかがポイントです。ドル安が進んでいることもあり、ドルに対して各通貨が高値更新していくかどうかも見ておいた方がよさそうです。ユーロは史上最高値更新となっていますがポンドも2024年7月の高値を超えてきそうなため中長期的にも上昇が続くかどうかチャートで確認したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

## <今週のファンダメンタル？>

日本では10-12月期日銀短観、11月貿易統計、10月機械受注、日銀金融政策決定会合(政策金利発表)、11月全国消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。米国では12月ニューヨーク連銀製造業景気指数、12月NAHB住宅市場指数、11月雇用統計、11月小売売上高、12月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、11月消費者物価指数、前週分新規失業保険申請件数、12月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、10月対米証券投資、11月中古住宅販売件数、12月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。欧州では、ドイツとユーロ圏で12月製造業・サービス業PMI(速報値)、12月ZEW景況感調査、ユーロ圏で10月鉱工業生産、11月消費者物価指数、ECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、ドイツで12月IFO企業景況感指数などがあります。ほかには、ニュージーランドで7-9月期GDP、11月貿易収支、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨、カナダと英国で11月消費者物価指数などがあります。